

心にある尺度

王冠儒

他人の華やかな留學生活と、海外で生活する素晴らしい経験を羨ましく思っている人が多くいらっしゃると思います。しかし、皆さんは華やかな生活の裏に、一人異国で味わう寂しさ、勉強の大変さ、生活の厳しさを考えたことがあるでしょうか。日本留学を考えている皆さん、今一度「本当に心の準備が出来ているか」と自分自身に問いかけてみて戴きたいと思います。

湖南農業大学日本語学科を卒業して、2013年7月から日本留学という道を歩み始めました。学生の個人の意志を尊重し、学生の選択を左右しない程度の参考意見を言うてくださるのは日本人の先生の指導の仕方だと思います。そのため、何か悩みごとがあったら、すぐ先生と相談して、先生の意見を聞いて、その後は自分で最終判断をしなければなりません。

今頃、まだ国内で留学の手続きをしている皆さん、日本に来たばかりの皆さん、「何のために日本へ留学するのか」という質問をもう一度自分に問いかけてみてください。この質問は大学、大学院の入学試験でもいつも聞かれる質問です。

単純にある分野の知識を基礎から勉強するなら、大学の学部を選ぶことが一番相応しいと思います。ある専門的な技術をマスターしたいのであれば、専門学校という選択肢もあります。では、文系の大学院で一体何を勉強できるのでしょうか。ある問題を総合的に分析・調査する能力を高め、知識の運用能力を高めることができると私は思います。専攻を選ぶ時に、自分自身の興味関心は勿論大事なことです、ハッキリとした目標と人生プランを考えることも大事だと思います。

日本の文系の大学院生の研究テーマは、ある分野の中の本の一面だけを深く追求するものが殆どです。例えば、私の興味がある研究分野は環境保護です。環境保護と言ったら、皆さんがきっと理系だと思ってしまう。しかし、環境保護の中では、環境政策・環境教育という文系の研究分野もあります。理系の専門だから、すぐ諦めたら今の自分がないと思います。きちんと調べたら、きっと自分の研究したいテーマと一致する専攻、教授がいらっしゃると思います。

先生方のご指導と自分の努力の両方あって、2014年9月12日、国立東京農工大学の合格通知書が届きました。この日はちょうど私が日本に来て1年2ヶ月、初めて教授と会って丸一年が経った日です。大学院進学までのこの1年9ヶ月間は無駄だったのかと聞かれたら、「絶対無駄じゃなかった」と自信を持って答えることができます。この1年9か月は自分の知識を少しずつ重ねていく、量の変化から質の変化へと導く重要な期間だと思っています。

留學生活とは様々な困難に立ち向かって、少しずつ解決していく過程だと思います。国内であれ、海外であれ、苦勞せずに絶対収穫がないことは同じだと思います。どこにいても自分自身の目標を忘れず、続けて頑張ればきっといい結果を得られるはずで